

※ 令和8年3月27日令和8年9月30日時点

(1) アルコール健康障害の発生予防

項目		現状データ	出典
(i) 国民の飲酒行動の状況	① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合	(令和6年) 全体 11.4% 男性 13.9% 女性 9.3%	厚生労働省「国民健康・栄養調査」より算出
	② 問題飲酒者（アルコール使用障害同定テスト（AUDIT）ベース）の割合	(令和6年) AUDIT 8点～14点 男性 14.1% 女性 3.8% AUDIT 15点以上 男性 5.4% 女性 0.8%	令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」結果速報
	③ 一時多量飲酒者（過去30日間で一度に純アルコール量60g以上の飲酒）の割合	(令和6年) 男性 19.2% 女性 4.7%	令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」結果速報
(ii) 飲酒が禁止されている者、飲酒すべきでない者の状況	① 20歳未満の飲酒者の割合（過去30日間に1日でも飲酒した者の割合）	(令和6年) 中学生・高校生の飲酒者の割合 1.7%	厚生労働行政推進調査事業費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「20歳未満の喫煙率・飲酒率」のモニタリングとその対策、及び「生理の貧困」に係るとりまとめの研究（研究代表者 竹原 健二）2024-2026
	② 妊娠中の飲酒者の割合	(令和 6-5 年) 1.54-0 %	令和 6-5 年度母子保健事業の実施状況等について
	③ 飲酒運転による交通事故件数	(令和7年) 2,283件	警察庁調べ

(2) アルコール健康障害の進行・重症化予防、再発予防・回復支援

項目	現状データ	出典
(i) 関係機関の連携	都道府県・政令指定都市における関係者連携会議の設置・開催状況	令和8年(20262025)年3月現在の状況を厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で集計。
(ii) アルコール依存症が疑われる者の推計数とアルコール依存症で医療機関を受診した患者数との乖離(いわゆる治療ギャップ)	① アルコール依存症で受診した患者数	(令和4年) 外来 109,323人 入院 25,435人 厚生労働行政推進調査事業費補助金「良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究」(精神保健福祉資料)
	② 依存症専門医療機関における新規受診患者数	(令和6年) 男性 11,840人 女性 2,873人 依存症全国センター調べ
	③ アルコール依存症生涯経験者数(推計)	(令和6年) 64.4万人 (38.3~90.5万人)(注1) 令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」結果速報
	④ アルコール依存症が疑われる者(アルコール使用障害同定テスト(AUDIT)に基づく推計)	(令和6年) AUDIT15点以上 304.1万人 (249.6~358.7万人)(注1) 令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」結果速報
(iii) アルコール健康障害の重症化予防	① アルコール関連肝疾患(注2)で受診した患者数	(令和5年) 71,000人 うち、 アルコール関連脂肪肝 5,000人 アルコール関連肝炎 15,000人 アルコール関連肝硬変 28,000人 厚生労働省 患者調査
	② アルコール関連肝疾患(注2)による死亡者数	(令和7年) 6,027人(男性 5,176人、女性 851人) うち、 アルコール関連脂肪肝 293人(男性 202人、女性 91人) アルコール関連肝炎 167人(男性 140人、女性 27人) アルコール関連肝硬変 4,722人(男性 4,052人、女性 670人)

(注1) 95%信頼区間 (注2) ICD-10では「アルコール性肝疾患」とされているが、国際的な潮流を踏まえ、本計画では「アルコール関連肝疾患」とする。

(iv) アルコール依存症に対する正しい知識・理解を持つ者の割合等	① アルコール依存症(者)に対する認識	① アルコール依存症やアルコール依存症者に対するイメージ ・ 酒に酔って暴言を吐き、暴力を振るう 51.7% ・ 昼間から仕事にも行かず、酒を飲んでいる 46.7% ・ 本人の意志が弱いだけであり、性格的な問題である 34.7% ② アルコール依存症について知っているもの ・ 飲酒をコントロールすることができな精神疾患である 76.5% ・ 飲酒をしていれば、誰もが依存症になる可能性がある 44.9% ・ 断酒を続けることにより、依存症から回復する 29.8% ※ ①は減少、②は増加が望ましい数値	令和5年度世論調査「アルコール依存症に対する意識に関する世論調査」
	② 飲酒ガイドラインの認知度	・ ガイドラインやその内容について知っている 4.2% ・ ガイドラインについて知っているが、内容について知らない 9.4%	令和6年度依存症に関する調査研究事業「飲酒と生活習慣に関する調査」結果速報
	③ アルコール依存症に関する研修を受講した医療従事者の数(注)	・ 依存症治療指導者養成研修 5449人 ・ 依存症医療研修 4,181人 ・ 依存症相談対応指導者養成研修 5258人	令和8(2026)年3月現在の状況を厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で集計。

(注) 依存症対策全国センターで「依存症治療指導者養成研修」、「依存症相談対応指導者養成研修」を実施、都道府県等で「依存症医療研修」を実施。依存症医療研修は、アルコールを含む研修を集計した結果

(3) アルコール健康障害の当事者及びその家族(こどもなど)への支援

項目	現状データ	出典
(i) 関係機関の連携	関係者連携会議における児童福祉部門等との連携状況 ・ 児童福祉部門との連携状況 174自治体/67自治体 ・ 女性支援部門との連携状況 95自治体/67自治体 ・ 教育部門との連携状況 39自治体/67自治体 ・ DV相談支援部門との連携状況 8(今後調査予定)/67自治体	令和8(2026)年3月現在の状況を厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部で集計。
(ii) 相談件数	(令和6(2024)年度) ・ 保健所 14,568件 ・ 精神保健福祉センター 3,948件	厚生労働省 地域保健・健康増進事業報告、衛生行政報告例